



【県の事業】

- あいち地域日本語教育推進センターの運営 1
- (参考) あいち地域日本語教育推進センターについて 2
- 愛知県地域日本語教育の推進に関する基本的な方針の策定について 【新規】 3
- 地域における初期日本語教育モデル事業の実施 5
- 多文化子育てサロンの設置促進 6
- 進路開拓・進路応援ガイドブック作成 【新規】 7
- 愛知県で働く外国人と企業のポータルサイトを開設【新規】 8
- あいち医療通訳システムの運営 9
- (参考) あいち医療通訳システムについて 10
- あいち多文化共生センターの設置・運営 11
- タウンミーティングの開催 12
- 外国人コミュニティとの意見交換会等の開催 13

【トピックス】

- 在留資格「特定技能」について ～創設後の推移～ 14
- 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 16
- (参考) 外国人との共生社会実現に向けたロードマップ 17



県内全域で地域日本語教育を総合的・体系的に推進する県直営の「あいち地域日本語教育推進センター」を運営しています。

2020年4月に、愛知県内における地域の日本語教育を総合的・体系的にコーディネートし、推進していくための事業や調査を行うため、多文化共生推進室に、「あいち地域日本語教育推進センター」を設置し、新たに配置した「総括コーディネーター」の下で、県内市町村やNPO法人等関係機関と連携しながら、地域日本語教育に関する施策を推進しています。

◆【総括コーディネーター】1名

地域日本語教育の専門的な知識に基づき、県内各地域で活動する「地域日本語教育コーディネーター」に対する指導・助言、関係者の調整、広報活動等を行います。**地域日本語教育の司令塔！**

◆【地域日本語教育コーディネーター】10名

総括コーディネーターと共に、地域や外国人の特性等に対応した教育プログラムを構想し、地域日本語教育関係者と意見交換をしながら、情報提供や助言を行います。

◆県内の市町村・市町村国際交流協会・日本語教室（10か所）に、**地域日本語教育コーディネーターを派遣**しました。（延べ派遣回数17回・延べ派遣人数30名）

◆日本語教育の総合的な体制づくりのため、県内の市町等に対して「**愛知県地域日本語教育推進補助金**」により、必要な経費の一部を補助しました。（交付先19団体）

<地域日本語教育コーディネーター派遣 利用者の声>

- ・相談できる人が少ないので、自分の考え方を整理することができた。
- ・派遣相談がきっかけとなり、取り組みの核となる市民との意見交換の場を持つことができ、市民と協働で取り組む本市の方向性を見出すことができた。



センター開設式
大村知事（左）と「総括コーディネーター」の千葉職員



地域日本語教育コーディネーター派遣の取組状況

【参考】あいち地域日本語教育推進センターについて



2021年度の取組

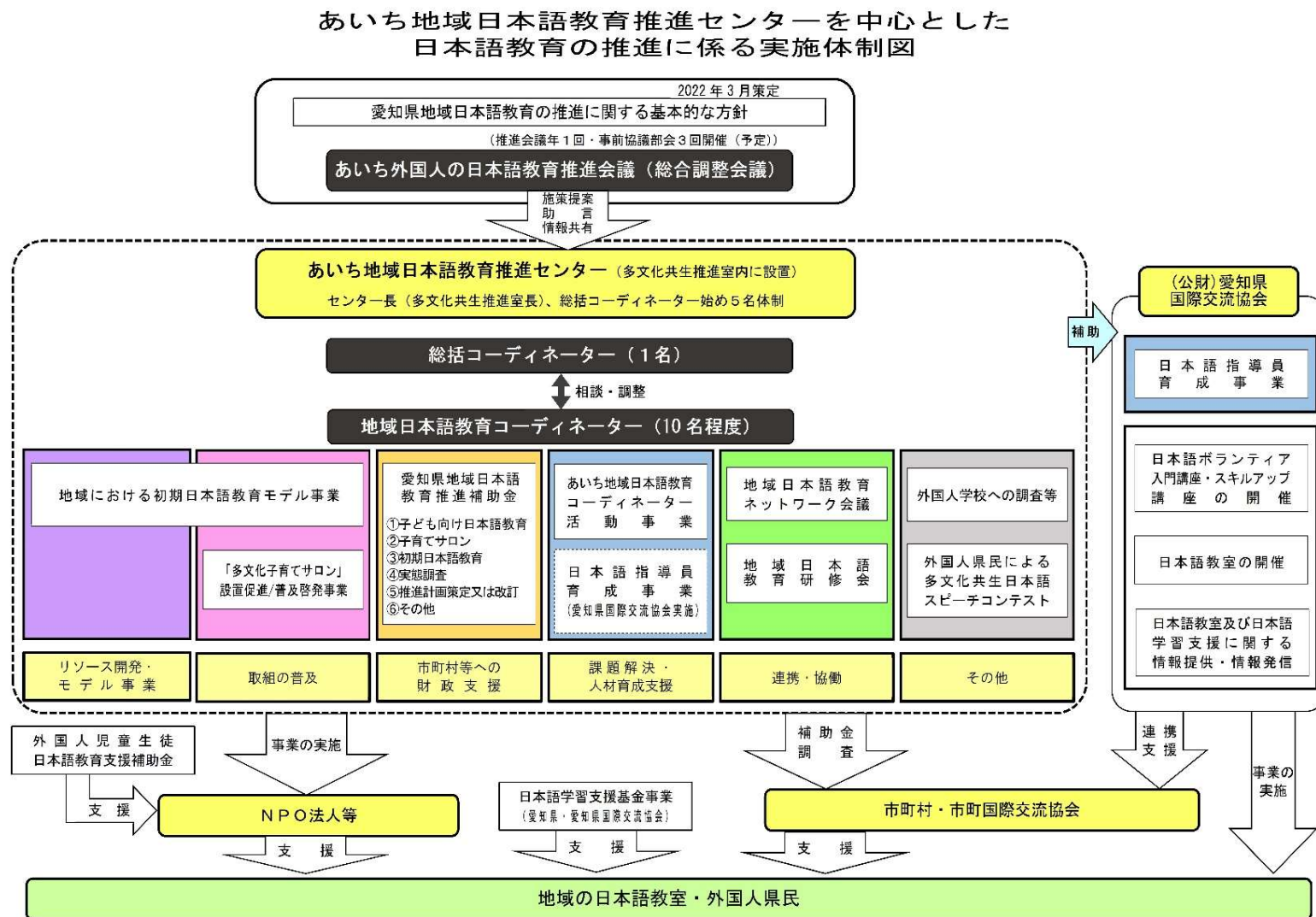
【開設の背景・経緯】

地域における日本語教育は、外国人学習者の多様化への対応やボランティアスタッフの不足など、様々な課題や悩みを抱えています。また、外国人県民が多国籍化し、県内全域に広がる中で、日本語教育に対する取組状況には地域差があるのが現状です。

こうした中、2019年6月施行の「日本語教育の推進に関する法律」において、地方公共団体は、日本語教育が適切に行われるよう、関係者間の連携強化と体制整備に努めることが明記されました。

そこで、文化庁の補助事業「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用して、2020年4月に「あいち地域日本語教育推進センター」を設置しました。

【あいち地域日本語教育推進センターイメージ図】



愛知県地域日本語教育に関する基本的な方針の策定①



2021年度 of 取組

本県の地域日本語教育に関する基本的な方針を新たに策定しました。（2022年3月公表）

2019年に「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行され、2020年に国の日本語教育に関する基本方針が策定されたことから、愛知県でも新たな基本方針を策定しました。

地域日本語教育に関する様々な主体の役割を改めて整理し、概ね今後5年間の県の施策の方向性を決めました。

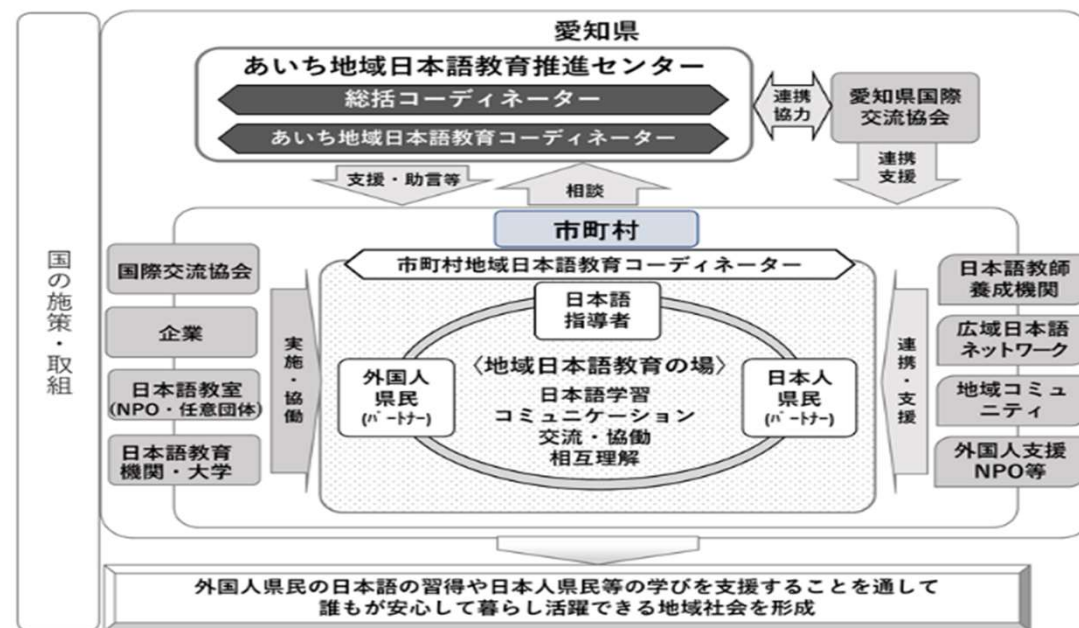
◆愛知県における地域日本語教育の意義

日本語での交流機会に、すべての県民が積極的に参画し、互いの文化的背景や考え方などを理解し合いながら、誰もが安心して暮らし活躍できる持続可能な地域社会をつくります。

◆目指す姿

- 日本語教育に関わる多様な関係団体・関係者と連携しながら「あいち地域日本語教育推進センター」を中心に推進体制を整え、全县をあげた取組を総合的・体系的に推進する。
- 市町村が主体となり、地域の状況に応じて地域日本語教育の推進に取り組む。
- すべての県民が、対等な立場で相互理解を深め、日本語でのコミュニケーション能力を伸ばす。

<愛知県における地域日本語教育推進のイメージ図>





◆内容

ア 総論

趣旨・目的、愛知県の現状、「地域における日本語教育」の目指す姿、地域の日本語教室の役割、「地域における日本語教育」の目指すレベル

イ 各主体の役割

行政（国、愛知県、市町村）、国際交流協会、企業、日本語教育機関、日本語教師養成機関、日本語教室運営団体、県民

ウ 県の施策の方向性

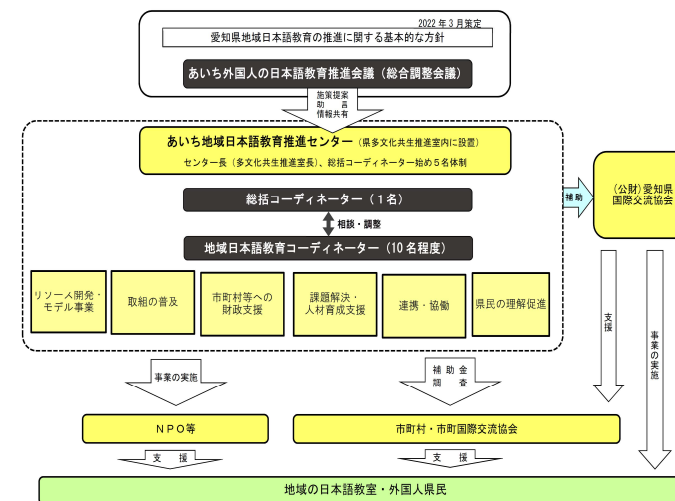
- ①リソースの開発・モデル事業の実施 ②取組の普及 ③市町村等への財政支援
- ④課題解決・人材育成支援 ⑤連携・協働 ⑥地域日本語教育に関する県民の理解促進

エ 推進体制

- ①「あいち地域日本語教育推進センター」の運営（p. 3, 4 参照）
- ②「あいち外国人の日本語教育推進会議」の開催

◆特徴

社会インフラとしての地域日本語教育について、行政が主体となって取り組む姿勢を明らかにするとともに、行政と多様な主体との連携強化の必要性を明記しました。また、「県の施策の方向性」を可能な限り具体的に明記しました。



あいち地域日本語教育推進センターを中心とした地域日本語教育の推進に係る実施体制図

◆2020年度に設置した「あいち地域日本語教育推進センター」における取組をより効果的なものとし、地域日本語教育に関する施策を総合的・体系的に推進していきます。

★連携協働団体
一般財団法人 日本国際協力センター
中部支所

地域における初期日本語教育モデル事業の実施



2021年度の取組

初期日本語教育の愛知モデルである“あいち初期日本語教育プログラム”をつくり、地域での外国人受入れのための社会的な基盤づくりを目指しています。

日本語がほとんど話せない外国人県民が簡単な日常会話やひらがななど基本的な日本語を学ぶ初期の日本語教室を、地域のボランティアの日本語教室と連携して実施するとともに、指導者となる人材の養成講座を実施し、初期日本語教育教材を作成しました。

◆2018年度から継続して、日本語教育に取り組むNPO団体などの専門機関と連携しながら、地域における初期日本語教育のモデルづくりを目指しました。

◆「はじめての日本語教室」は、全16回開催し、外国人県民**42名（総数）**が参加しました。

◆初期日本語教室を実施するための専門的な知識・技能を身に付けるための**指導者養成講座を全10回開催し、25名**が参加しました。

◆2018年度以降養成した指導者向けに**フォローアップ講座を全2回開催し、延べ35名**が参加しました。

◆2019年度に作成した初期日本語教育教材をもとに、教室オリエンテーション資料と、教材を11トピック（6言語：英語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、中国語、ベトナム語）追加作成しました。

<参加者の声>

- ・外国人学習者：この教室に参加して、自信がついた。生活の日本語がわかるようになった。
- ・養成講座：同じ住民として、外国人住民を手助けしたいと考えるようになった。修了後は初期日本語教室の運営面にも関わっていきたい。



「はじめての日本語教室」では参加者が交流しながら、外国人住民は日本語を、日本人住民はコミュニケーション方法を学びました。



指導者養成講座では多文化共生につながる日本語教室での支援を学びました。

★連携協働団体：
東海日本語ネットワーク、名古屋大学、
名古屋外国語大学、岩倉市 等



県内市町村と連携して、多文化子育ての拠点づくりを推進しています。

乳幼児を育てる外国人県民が、日本人親子との交流の中で、子育てに必要な情報を得たり、子どもに言葉を教えるポイントを学ぶ「多文化子育てサロン」を実施しました。

◆主な取組内容は以下のとおりです。

・親子のコミュニケーションの促進

(ヨガやリズム遊び等)

・子どもの「ことば」について考える

きっかけづくり

(絵本の読み聞かせ等)

・保護者への子育てに関する情報提供

(子どもの病気や栄養に関する講座等)

・外国人親子と地域をつなげる取組

(児童センターや消防署の見学等)

◆県内3か所(豊田市、半田市、大府市)で計22回実施し、乳幼児を育てる外国人県民、日本人親子が計272組参加しました。

◆対面やオンラインでの交流を織り交ぜながら、ダンスや読み聞かせ等を通じて交流しました。

◆言葉や文化が多様な親子が、一緒に遊んで学べる場が広がるよう、今後も取組を進めていきます。

★連携協働団体

- ・社会福祉法人太陽(半田市)
- ・一般社団法人ぶんぱっぱ(豊田市)
- ・大府市国際交流協会(大府市)



地震や災害に備え、親子で防災について学びました。



親子で一緒にダンスを踊りました。

共催：愛知県芸術劇場

進路開拓・進路応援ガイドブックの作成



2021年度の取組

外国人等の子どもたちにとって必要な情報や、保護者や地域の支援者などの参考となる情報をまとめたガイドブックを作成しました。

これまで愛知県では、2012年度に、第1弾となる、「外国につながる子どもたちの進路開拓・応援ガイドブック」を作成し、進学・進路に関する情報発信に取り組んできました。

2021年度、改めて外国人等の子どもの進学や就職の実態を調査し、高校や大学進学のためのより詳細な情報などを追加して、新しいガイドブックを作成しました。



「地域の支援者向け」編

◆外国人等の子ども及びその保護者や外国人を雇用する企業等へのヒアリング調査と、子ども（中高生・不就学）及びその保護者へのアンケート調査を行いました。

<ヒアリング調査の声>

・地域の日本語教室で、日本語や学校の授業で分からなかったところを教えてもらい、本当に良かった！（高校生）

・進路の時間に、高校の先生に資料を見せてもらい、「管理栄養士」という仕事を知りました。

ぜひやってみたいと思い、資格がとれる大学進学を目指しています。（高校生）

<アンケート調査の声>

・「進学説明会に参加したことがあるか」という問いに、「わからない」との回答が最も多く、「説明した」という認識のものが伝わっていない状況がある。

◆子ども・保護者及び支援者向けガイドブック

ア「地域の支援者向け」編

○アンケート・ヒアリング調査の結果と考察

○外国人等の子どもや保護者が進学就職に関して特に疑問・不安に思っていること 等
(日本語のみ)

イ「外国人等の子ども及び保護者向け」編

○日本の高校・大学入試や先輩のインタビュー 等

本冊：日本語

ポイント版：3言語（ポルトガル語・フィリピン語・スペイン語（日本語併記））

※ガイドブックはデータとして作成し、多文化共生推進室ウェブページに掲載



「外国人等の子ども及び保護者向け」編

★連携協働団体
NPO法人トルシーダ

愛知県で働く外国人と企業のポータルサイトを開設



2021年度の取組

外国人を受け入れる企業等が、受け入れた外国人従業員に対して、日常生活上の支援を円滑に実施するためのサポートツールとして、ポータルサイトを開設しました。

2019年度に作成した「早期適応研修」のカリキュラムの紹介や、カリキュラムを活用した取組モデル等を掲載するポータルサイト「ようこそ、愛知へ 愛知ではたらく・暮らす、はじめの一步」を開設し、情報発信するとともにカリキュラムの普及を図りました。

◆これまでに愛知県が行った、外国人を受け入れる企業や外国人従業員に対する取組をまとめ、研修カリキュラム等の実施を促進する情報を一元的に集約しました。

◆ポータルサイト「ようこそ、愛知へ 愛知ではたらく・暮らすはじめの一步」

・対応言語：7言語（日本語、ポルトガル語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、インドネシア語）※外国人向けのページのみ多言語化

・内容：早期適応研修カリキュラム・教材の紹介
企業の取組モデル等の事例紹介（4事例）
日本社員に向けた外国人と共に働く上でのポイント紹介
従業員と社員と一緒に参加できる地域のイベントの発信（随時更新）



ポータルサイトトップページ

【参考】これまでの関連する取組

(2019年度)

◆早期適応研修カリキュラム、教材及び指導マニュアルの作成

新たに来日した外国人県民を対象に、日本の習慣やマナー、生活者としての日本語などを習得するためのカリキュラムや教材等を作成しました。

(2021年度)

◆企業におけるモデル実施等

カリキュラムを活用した研修をモデル的に実施しました。

★連携協働団体

一般財団法人 日本国際協
力センター 中部支所



県内の医療機関に通訳派遣や電話通訳を提供するしくみである「あいち医療通訳システム」を運営し、外国人県民が安心して医療機関等を受診できるようにしています。

(次頁により詳細を説明しています)

◆医療機関、保健所・保健センター等からの依頼に応じて、通訳派遣や電話通訳等を実施しました。

【2021年度実績】

- ・通訳派遣 1, 019件
- ・電話通訳 2, 851件
- ・文書翻訳 171件
- ・登録医療機関数 157機関

※通訳派遣・文書翻訳の対応言語は14言語

※電話通訳の対応言語は6言語

◆2021年度は、急増するベトナムの方に対応するため、ベトナム語の通訳者を募集し、語学能力試験、基礎研修（7日間36時間）、認定試験を実施した結果、**4名の方が合格し、医療通訳者として認定**されました。

(2021年度末時点で**14言語300名**)

◆過去に養成した通訳者に対し、**フォローアップ研修を3回実施**し、講義やグループワークを行いました。



<通訳派遣の様子（イメージ）>



<広報用キャラクター やくすくん>

【参考】あいち医療通訳システムについて



【事業概要】

愛知県、県内市町村、医療関係団体、県内関係大学により構成する「あいち医療通訳システム推進協議会」を運営主体として、利用申込みのあった医療機関、保健所、保健センター等に通訳派遣や電話通訳等を行います。

背景・経緯

外国人県民は医療機関に行く場合、通訳のいる医療機関が少ないなど、言葉の壁に不安を感じています。そこで、外国人県民が安心して医療機関を受診できるよう、県医師会など医療関係団体や大学と連携して、通訳派遣や電話通訳を提供する仕組みである「あいち医療通訳システム」を構築しました。通訳対応のほか、医療通訳者の養成も行っています。

事業内容

【運営主体】 あいち医療通訳システム推進協議会
 【設 立】 2012年2月3日

【システムの内容】

- ・通訳派遣（対応言語 14言語）※ 1
- ・電話通訳（対応言語 6言語）※ 2
- ・文書翻訳言語による災害情報の提供※ 1
- ・医療機関外国人対応マニュアル（診療対応等）の提供※ 2

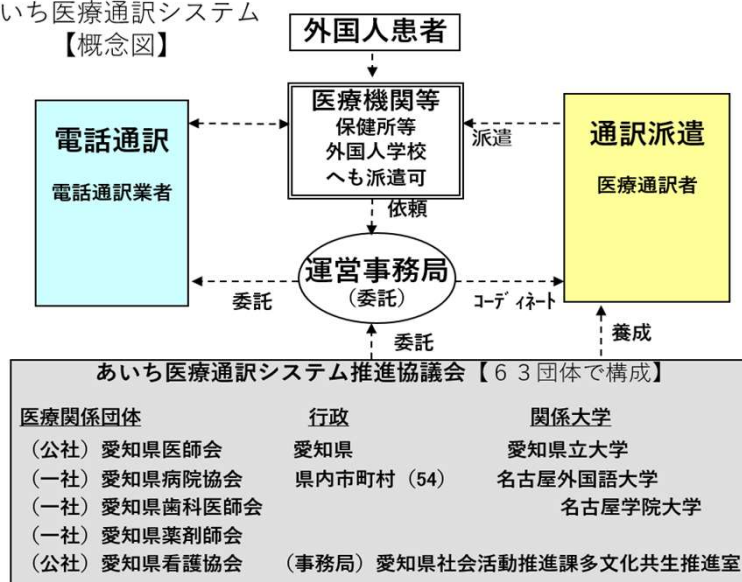
【通訳者の養成】

通訳者を募集し、語学能力試験・基礎研修・認定試験を実施。合格者を医療通訳者として認定。

<対応言語>

- ※ 1：英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、ネパール語、マレー語、アラビア語、韓国・朝鮮語、ミャンマー語、モンゴル語
 ※ 2：英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、韓国・朝鮮語

あいち医療通訳システム
【概念図】





2019年4月から、相談体制を拡充し、新たに行政・生活全般の情報提供と相談を多言語で行う一元的窓口「あいち多文化共生センター」を運営しています。

(公財)愛知県国際交流協会が県三の丸庁舎の「あいち国際プラザ」内に設置、運営していた「多文化共生センター」の相談体制を拡充して、「あいち多文化共生センター」として運営しています。

◆外国人県民が愛知県で安心して暮らすことができるよう、日常生活に必要な情報を多言語で提供しています。

◆複雑な相談を抱える相談者に対しては、関係機関と連携しながら、問題解決に向けた支援を行います。

【2021年度相談件数】 3,801件
(内訳)・情報提供 3,255件
(各種制度の概要や手続きの説明、
専門機関の紹介など)
・通訳・翻訳の依頼 399件
・弁護士相談 80件 など

○多文化ソーシャルワーカーによる相談

【対応言語】

ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、フィリピン語/
タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、
タイ語、韓国語、ミャンマー語、日本語 計12言語

(2022年度よりウクライナ語とロシア語を追加)

○テレビ電話通訳サービス (11言語)

○多言語翻訳アプリの導入 (82言語)

○出入国在留管理局職員、愛知労働局職員、
県消費生活相談員による専門相談の実施
(予約制)



<相談員より>

住居、離婚、近隣トラブルなどの「生活」に関する
こと、外国語が通じる医療機関の紹介など「医療・
福祉」に関すること、学校や日本語教室など「教育」
に関することなどに多く対応しました。
困ったときには、お気軽にご相談ください。



【相談日時】月曜日～土曜日

10:00～18:00

※国民の祝日に関する法律に規定する
休日及び年末年始(12月29日から
翌年1月3日まで)を除く。

電話 052-961-7902

★設置・運営団体

(公財)愛知県国際交流協会

様々な立場の皆さんが、対等な立場で連携・協働するために、愛知県の多文化共生について話し合う場を定期的を開催しています。

◆学生を対象に名古屋市で3回開催し、延べ29名が参加しました。

◆第1回「多文化共生って？～外国にルーツを持つってどんなことだろう～」

参加者 11名

外国にルーツを持つ2名の方から自身の経験等について事例報告していただいた後に、事例報告者にインタビューを行い、知識を深めました。

後半では、外国ルーツを持つ方が抱える悩み等を、グループで考えました。課題を解消に向けた解決策を「今からできること」と「中長期的にやりたいこと」

の二つの視点からアイデアを出していただきました。



<参加者の声>



- ・当事者の方の生の声を聞くことができて良かった。
- ・同年代でいろいろな経験をして思いを持っている方と話せたことで視野が広がった。

◆第2回「多文化共生って？～外国人と一緒に暮らす地域をのぞいてみよう」

参加者 8名

外国人住民比率の高い、高浜市と知立市で多文化共生社会づくりに取り組む2名の方から、住民同士のつながりをキーワードに、事例報告していただきました。

ワークショップでは、多文化共生のまちづくりについて課題を検討し、どんなまちづくりができるか、アイデアを出しました。観光地等の地域資源を活用した、

学生ならではの視点から、様々な意見を聞くことができました。



- ・多文化共生に関心のある学生と話す機会は少ないので、若者目線の新しい考えを聞くことができた。
- ・各地域の状況を知ることができた。

◆第3回「多文化共生って？～これからできる支援について考えよう～」

参加者 10名

参加者の学生と同年代で、多文化共生の活動に取り組む2名の方から、活動を通じて感じた多文化共生の課題等について事例報告をしていただきました

後半のワークショップでは、外国人住民への支援について現状と課題を考えました。会の最後には、話し合いの結果を

踏まえ、参加者の皆様に行動目標として「明日からできること」を発表していただきました。



- ・今まで、多文化共生の活動を全く知らなかったもので、これから調べてみたい。
- ・自分にできることをみんなで意見交換でき、有意義な時間だった。

外国人コミュニティとの意見交換会等の開催



2021年度の取組

外国人コミュニティと連携して、情報提供や意見交換を行ったり、先進事例の紹介などを行っています。外国人コミュニティにおける交流の場づくりやコミュニティの中心となる人材育成を支援しています。

◆豊田市で1回開催し、計34名が参加しました。

テーマ「外国につながる子どもたちの進路応援セミナー（子ども・保護者向け）
～聞いて話して、将来の自分について考えよう～」

参加者 34名（外国にルーツを持つ子ども及び保護者、教員、支援者）

外国にルーツを持ち、活躍されている先輩4名にお越しいただき、高校生活で楽しかったことやがんばったこと、進路を考えるときに悩んだことなどについての対談を実施しました。

後半では、グループに分かれ、先輩も交えながら、先輩への質問や参考になったこと、感想などをもとに話し合いを実施しました。その後、各グループで話し合ったことや話し合いの中で感じたことについて、全体に向けて発表してもらいました。

<発表者の声>

先輩は勉強もスポーツも頑張っていて、すごいと思いました。高校での勉強のことや受験のことをいろいろ聞きました。僕も勉強がんばろう！

・高校では、どんなコースがあるのかを聞くことができ参考になりました。

・日本語をどうやって勉強したのか、聞くことができました。

・大学受験について聞くことができ、とても参考になりました。

・高校の保健体育の授業では、言葉が難しいです。ベトナム語は辞書がないので、一度英語に訳してから日本語に訳して勉強しているという話も聞きました。



先輩4名による対談の様子



進路選択について熱心に聴く参加者の姿が見られました。

★連携協働団体
NPO法人トルシーダ